迎えた翌日の昨年9月20

検査

しかし、16歳の誕生日を ル大会にも駆け付けた。 館の全道高体連のバレーボ

援にも参加。

い仲間たちに贈った。好江さん(4)が高砂さんが残した小遣いを使 持ち続けて学校生活を送り、3月16日に亡くな ら2年10カ月間、がんと闘い、最期まで希望を 「おいしかった」と話したポテトチップス。母 1年生の高砂彩乃さん 差し入れは昨年の学校祭で仲間と食べ、 天国から生徒たちに差し入れが届い8、9の両日に開かれた江陵高校の (享年16) は発症か



小児がんで亡くなっ た高砂彩乃さん(母

の病院に入院中の同11月

友人の木村桃香さん =現江陵高2年=と

病状は入退院を繰り返す厳 の結果、脳への転移が判明。 は、 教室で 突然倒れ、

い状態となったが、

好江さん提供

ブに行った。

好きなアーティストのライ

江陵高・高砂さん

高砂さんは幕別町生ま

思い出のポテチ」母が同級生へ

骨盤の半分ほどを削る大手

%に耐えたが、3年時に肺

学校祭の準備中、 えた今年の学校祭。

高砂さん

は「先生からもらって、

に転移、抗がん剤などの治

肉腫」を発症した。

骨のがん「骨

うね」と記した。

ててくれた感謝とともに、 に手紙を書き、これまで育

んの誕生日の3月6日、母

亡くなる10日前、

「これからも頑張っていこ

腰が痛み、 成長痛と思って

たという。

高砂さんが亡くなって迎

責めたりすることはなかっ

化しても母に当たったり、

いたが、診察で分かった。

高砂さんの母好江さんからの差し 入れを受け、学校祭に臨んだ2年 生のクラスメート。高砂さんの写 真を持つのが友人の木村さん

とはなかった。楽しかった 達もできた。好江さんは「学 ったものの通学を続け、 不安視される状態だった さん (18) に憧れてプレー 仪に行きたくないと言うこ 仪もサポート、 店となり、

2歳上の姉菜摘 代に進学を決めた。 していたバレーボー 手術後は松葉づえでの生 治療や検査で休む日はあ 高校生活を送ることも 姉が通っていた江陵高 クラスに友 -ルを断

学校祭もライブも楽しんだ がん闘病の16歳

すかった。 納骨は三回忌となる、 も「あすになったらいるの が湧かない」と一緒にライ では」と思う。高砂さんの ブに行った木村さん。 「明るくてとても話しや 亡くなった実感 今で 迎え

に贈った。

ていたことを思い、

好江さ

んは全クラス分13箱を学校

スがおいしかった」と話し

んなで食べたポテトチップ

るはずだった卒業式後に行

われる予定。黒坂教諭は「卒

業式で名前を呼びたい」と

ずに進んで」 校生活を楽しんでほしい。 考えている。 つらいことがあっても諦め たちに娘の思いを託す。「高 好江さんはクラスメー (眞尾敦)

国内の発症数は年間150人ほどで、 表面から発見しづらいため、

のでは」と話す。 いた」と振り返る。 窓をかけないよう

頑張って に黒坂博史教諭も「皆に迷 、現プロ野球選手) 昨年夏は、古谷優人投手 高校生が多い。 担任だっ

続く場合などは診断を受けることが勧められる。